

地産地消のイベント 十日市場の「いちば」

平成28年6月から、夏と冬の年に2期（各3～4回）十日市場駅前広場で、十日市場の「いちば」を開催しています。地元の農家が中心となり、十日市場産の新鮮野菜やお米を販売しています。

【実施概要】（2018年 十日市場の「いちば」夏）

日程	来場者（推測）
6/23（土） 10:00～12:00	300人
6/30（土） 10:00～12:00	250人
7/7（土） 10:00～12:00	250人
7/14（土） 10:00～12:00	350人



地元農家のみなさん



「いちば」当日の様子

十日市場の“農情報”

緑区の水田の面積は市内で2番目に大きく、中でも十日市場の水田は、緑区の約4分の1を占め、市内でも屈指の田園地帯となっています。平成27年1月には、横浜市の農業専用地区に指定され、地域全体で水田保全、農業振興に取り組んでいます。

水田の面積 約7.2ha

畑の面積 約9.1ha



中世に毎月十日に市が立っていたことに因む地名が「十日市場」です。市が開かれた推定地とされる神明下(台地区)で、昭和60年に行われた発掘調査の結果、14世紀初頭の瀬戸鉄釉香炉や15世紀中頃の天目茶碗、鎌倉末期から室町期にかけての石造物である板碑など、交易でもたらされたと考えられる中世の遺物が多数出土しました。中世の屋敷跡ないし集落址と推定されています。この中世の市場地名「十日市場」に因んで、平成28年度から毎年開かれている『十日市場の「いちば」』は、今年3年目を迎えました。回を重ねるごとに、新鮮な野菜類を買い求める人たちでごった返しています。この「いちば」が更には人々にとってかけがえのない「いちば」となるよう期待しております。

第一回とおかいちば・まちづくりスクールの講師：地域史研究者：相澤雅雄氏

